

# 排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

食品工場におけるボイラーの更新

(A 重油→都市ガス)

排出削減事業者名：井村屋フーズ株式会社

印

排出削減事業共同実施者名：丸紅株式会社

印

その他関連事業者名：

印

申請日： 年 月 日

## 1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	井村屋フーズ株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	中原工場
住所	〒441-3106 愛知県豊橋市中原町字地歩 24 番地の 1
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	丸紅株式会社
その他関連事業者（注3）	

## 2 排出削減活動の概要

### 2.1 排出削減事業の名称

食品工場におけるボイラーの更新（A 重油→都市ガス）

### 2.2 排出削減事業の目的

工場で使用しているボイラーを高効率の機種へ更新することにより、二酸化炭素排出量を削減する。

### 2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

これまで使用していたA重油ボイラーを高効率の都市ガスボイラーに更新することにより、エネルギーの使用の合理化を進め、二酸化炭素排出量の削減を図る。

### 2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

### 2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

## 3 排出削減活動期間

### 3.1 プロジェクト開始日

2011年12月10日

### 3.2 モニタリング対象期間

（本報告における実績報告期間）

2013年4月1日～2019年3月31日

## 4 温室効果ガス排出削減量

### 4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

### 4.2 活動量

排出削減事業が活動量指標を採用している場合、排出削減事業計画 5 項に沿って記載。

#### 4.2.1 活動量・原単位

活動量、原単位は採用しない。

#### 4.2.2 活動量の採用根拠

活用量は採用しない。

### 4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは工場内のボイラー（更新前 5 台、更新後 2 台）およびその蒸気が供給される機器である。

## 5 モニタリング対象指標

排出削減事業計画 7.1 項を参照して記載。記載内容に変更のある場合、変更理由を項目ごとに記載すること。

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
$F_{fuel,Pj}$	事業実施後の燃料使用量	千 m <sup>3</sup> N	2013 年度：737.1 2014 年度：654.8 2015 年度：670.5 2016 年度：700.2 2017 年度：721.4 2018 年度：683.9	ボイラー専用の取引メーターにて管理され購買伝票を保管し、標準状態(※)に換算して集計する。	変更なし
$HV_{fuel,Pj}$	都市ガスの単位発熱量	GJ/千 m <sup>3</sup> N	2013 年度～2014 年度： 45.1 2015 年度～2016 年度： 45.0 2017 年度～2018 年度： 45.1	デフォルト値	変更なし
$\epsilon_{BL}$	事業実施前ボイラー効率	%	87.7	カタログ値より算出 (高位発熱量基準)	変更なし
$\epsilon_{Pj}$	事業実施後ボイラー効率	%	88.2	カタログ値より算出 (高位発熱量基準)	変更なし
$CF_{fuel,BL}$	事業実施前の燃料 (A 重油) の単位発熱量あたりの排出係数	t-CO <sub>2</sub> /GJ	2013 年度 ～2018 年度：0.0708	デフォルト値	変更なし
$CF_{fuel,Pj}$	事業実施後の燃料 (都市ガス) の単位発熱量あたりの排出係数	t-CO <sub>2</sub> /GJ	2013 年度 ～2018 年度：0.0513	デフォルト値	変更なし

## 7 排出削減量の計算

承認排出削減事業計画において採用した算定式に基づき、モニタリング対象項目実測値等を反映した計算結果を記入すること。

注) 複数の方法論を採用している場合は、方法論ごとに排出削減量の計算結果を記入すること。

### 7.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	737.1	45.1	0.0513	1,705.4
2014 年度	654.8	45.1	0.0513	1,514.9
2015 年度	670.5	45.0	0.0513	1,547.8
2016 年度	700.2	45.0	0.0513	1,616.3
2017 年度	721.4	45.1	0.0513	1,669.1
2018 年度	683.9	45.1	0.0513	1,582.2
単位	千 m <sup>3</sup> N	GJ/千 m <sup>3</sup> N	tCO <sub>2</sub> /GJ	tCO <sub>2</sub>
EM <sub>PJ</sub>				9,635.7

### 7.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	33,433.0	—	0.0708	2,367.1
2014 年度	29,699.2	—	0.0708	2,102.7
2015 年度	30,342.7	—	0.0708	2,148.3
2016 年度	31,687.0	—	0.0708	2,243.4
2017 年度	32,721.5	—	0.0708	2,316.7
2018 年度	31,018.2	—	0.0708	2,196.1
単位	GJ	—	tCO <sub>2</sub> /GJ	tCO <sub>2</sub>
EM <sub>BL</sub>				13,374.3

### 7.3 リークエージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	0			0
2014 年度	0			0
2015 年度	0			0
2016 年度	0			0
2017 年度	0			0

2018年度	0		0
	LE		0

#### 7.4 温室効果ガス排出削減量

項目		記号	
ベースライン排出量	(7.2)	<i>EM<sub>BL</sub></i>	13,374.3
事業実施後排出量	(7.1)	<i>EM<sub>PJ</sub></i>	9,635.7
リーケージ排出量	(7.3)	<i>LE</i>	0
<b>温室効果ガス排出削減量</b>		<b><i>ER</i></b>	<b>3,738</b>

## 8 省エネルギー量

注) 複数の方法論を採用している場合は、表を追加して方法論ごとにエネルギー使用量を記載すること。

	モニタリング期間 ( 2013年 4月 1日 ~ 2019年 3月 31日)							
	エネルギー使用量			熱量換算 (GJ)		原油換算 (kl)		
	単位	ベースライン	実績	ベースライン	実績	ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)
A重油	kl	4,848.9		188,620.3		4,866.4		4866.4
都市ガス	千m <sup>3</sup>		4,167.8		187,551.0		4,838.8	-4,838.8

省エネルギー量 (原油換算) = 27.6 kl

## 9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 ( 年 月 日 ~ 年 月 日)		
	エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
	単位 (実績)	(実績)	(実績)